

代議員の声 (令和3年10月F-VOTEより)



製鉄記念八幡病院 リハビリテーション科
鈴木 裕也 氏

代議員の役割について

代議員の役割は、国会議員に置き換えて考えると分かり易いかと思います。数年前までの福岡県理学療法士会は、県学会の時に総会を行っていました。しかし、今では約6000名を超える大きな組織に発展しました。この6000人が一堂に会して意見を言っても収集はつきません。そこで、各個人の意見を代弁してくれる人を選びましょう。というのが代議員選挙です。ですので選挙で選ばれた代議員は、福岡県理学療法士会会員の意見を届けること、理事を中心とした県士会の活動が適切に行われているかを確認すること、そして、理事と共に県士会がより良い方向へ行くように組織を導くことが義務であり、役割だと感じています。

代議員になったきっかけ

正直なところ、理事に立候補すべきか悩みました。私は他にもPT協分会科学会(現在は各学会や研究会として法人化)や他学会の役職も兼務していたため、キャパシティ的に無理だなと感じました。しかし、自分の職場の上司・先輩が代々県士会の役員として活動していたので、私も何かの形で県士会の役に立ちたいと思っていたところ、代議員制度が発足したので立候補したという経緯です。

代議員としてのやりがい

私は、選んでくれた会員の代弁として、そして自分個人の意見として県士会の活動に意見を述べるようにはしていますが、総会ではどうしても理事と代議員は敵対関係のようなイメージを持たれます。実際は、そうではなくて、同じ県士会員として理事は業務を企画立案し、施行する側、代議員はそれを審査する側となりますが、両者とも同じ方向を向いていないといけません。ここでいう同じ方向とは、福岡県理学療法士会の組織として、その活動が組織を発展させる、また県士会員にとってメリットが大きいものという意味です。ここを間違えると、ただの痴話喧嘩になりますが、向いている方向が同じで違う意見なら、十分審議するに値するものと思います。このような、審議(やりとり)を理事とするのが、楽しみであり、約6000名の会員を有する大きな組織の今後の方向性を理事とともに創っているというのは、代議員の大きなやりがいだと思います。

次年度代議員に望むもの

代議員に望むことというより、理学療法士としてどうありたいか。自分の仕事に誇りを持っているか、自分の仕事は楽しいかを考えることが重要だと思います。私を例にとれば、自分の理学療法士としてのやりがいは、海外で言われている「メスを持たない整形外科医」という理学療法士の持つポテンシャルです。今の自分の実力では、この言葉には到底追いついていませんが、諸外国ではこのように言われるほど理学療法の価値は高いのです。この価値ある理学療法を極める、広める、守る、発展させるためには、自分は何かできるのだろうか。と考えてみれば、県士会の活動に参加する・代議員として会員の意見や自分の意見を伝えるといったところに行き着くかと思います。なぜなら、そこには自分自身の大きなチャンスが広がっているからです。代議員として、理学療法士の進むべき道とともに議論する機会はそうそう無いと思います。代議員もそうですが、県士会の活動、ひいては自分自身の活動を改めて考え直すきっかけが代議員だったらいいなと個人的には思います。

令和6年度代議員選挙 立候補受付中

申請はJPTAマイページから
締切 2023/12/15(正午)まで



選挙についてご不明な点がございましたら、下記選挙管理委員会メールアドレスまでお問合せ下さい。

pt.senkan.f@gmail.com

